

てにをはの泣いてゐる句や夜の秋

藤田湘子

俳句結社の投句者と選者（主宰）の関係は、絶対的信頼に基かなければ成立しない。

湘子先生は、中央例会などの句会において合評の際添削されることもあったが、作者の名乗りで同人であると分かった時、しばしば「この句（添削例句）はあげないよ」と言い放ち、作者の推敲や勉強の参考にするに留め、「鷹の投稿には使えない」と釘を刺された。

毎月、自宅で深夜まで選をしていると、投稿用紙の句が「てにをは」の助詞一文字の使い方ですべて失敗している、一句が泣いていると寂しい思いをしたそうだ。季語「夜の秋」が実に効いている。

石田波郷には、「霜柱俳句は切字響きけり」がある。

1985年（昭和60.07.28作）第八句集『黒』 鑑賞・轍郁摩